

1-1 世界1位の米ウォルマートの売上高はどのくらい?

世界1位の売上高を誇る企業をご存じでしょうか。アマゾン？アップル？マイクロソフト？実は違います。答えは米国の小売最大手企業ウォルマートです。米フォーチュンが発表した2022年版の「Global 500」によると、ウォルマートは9年連続で企業売上高世界1位です。

その売上高は、なんと5728億ドル。日本円で約82兆円(1ドル=143円で計算)です。82兆円といわれても、あまりに数字が大きすぎてピンとこないかもしれません。

82兆円という数字は、決算書などでは「82,000,000(百万)」と表記されたりします。ビジネスパーソンの方にはなじみがあると思います。しかしながら、「82,000,000(百万円)」という表記を見て、すぐに「82兆円」と読める人はどれくらいいるのでしょうか。

決算書では「60,000(千円)」のように「千円」単位で表記されていることもあります。これも一発で「6000万円」と読める人は少ないかもしれません。

なぜ、こんな表記の仕方をするかというのと、数字が大きくなって「0」がたくさん並ぶとわかりにくいからです。

「1,000,000,000円」を見てパッといくらかわかるでしょうか？おそらくたいいの人は右から順番に「一、十、百、千、万、……」と数えていくと思います。そして、「10億円」という答えにたどりつきます。

このように「0」の数が多くなればなるほど読みにくくなるので、「1,000(百万円)」とか「1(十億円)」といった単位で表記しているのです。

とはいっても、「1(十億円)」はまだしも、「1,000(百万円)」をすぐに「10億円」と読むのは難しいと思います。

実は、これは慣れの問題です。ちょっとしたコツを覚えるだけで、誰でも簡単に読めるようになります。

さっそく練習してみましょう。

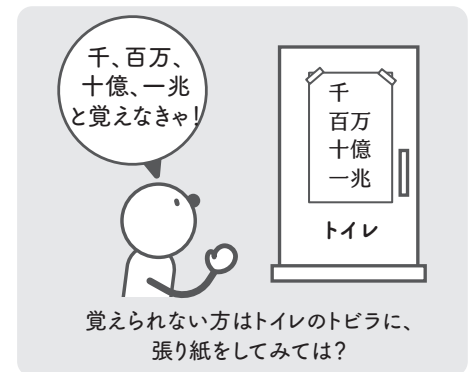
POINT 漢数字とカンマの数を覚えましょう。

※左側は千、百、十、一と一個ずつ下がるイメージ、右側は、万、億、兆と一個ずつ上がるイメージを持つとよい。	千	1,000 (カンマ1つ)
	百万	1,000,000 (2つ)
	十億	1,000,000,000 (3つ)
	一兆	1,000,000,000,000 (4つ)

例1 45,002(千円)を読んでみましょう

単位が「千円」なので、一番右側の「2」が「2000円」を表しています。そして、カンマの左の数字が「500万」です。よって、「4500万2000円」と読むことができます。

ポイントは、カンマの左にある数をカンマごとに飛ばしながら読んでいくことです。口ずさむように読むと、より覚えやすくなります。最初のうちは指で押さえながら、「千、百万、十億、一兆」と



よいでしょう。

例2) 1,234,567 (百万円) を読んでみましょう

単位が「百万円」ですから、一番右の「7」が「700万円」です。右から数えて最初のカンマの左の数字が「40億」、次のカンマが「1兆」となります。よって、「1兆2345億6700万」となります。

大きい数のカンマの個数を覚えよう

先ほども「POINT」のところで見ましたが、大事なのもう一度。

100万 1,000,000 (2つ)

10億 1,000,000,000 (3つ)

1兆 1,000,000,000,000 (4つ)

まずはこの3つを覚えれば応用がききます!

1-1 練習問題

次の数を口に出して読んでみましょう。

(1) 2,801,409

(13) 567 (千円)

(2) 8,167 (千円)

(14) 3.3 (百万円)

(3) 4,070 (千円)

(15) 580 (千円)

(4) 74 (百万円)

(16) 5,100,044 (千円)

(5) 1,055 (百万円)

(17) 1,000 (百万円)

(6) 305,156,269

(18) 400 (十億円)

(7) 501 (千円)

(19) 45,678,001

(8) 3.45 (百万円)

(20) 5,000 (千円)

(9) 7,705 (百万円)

(21) 900,100

(10) 4,777 (十億円)

(22) 0.62 (百万円)

(11) 64,833,298

(23) 60.55 (千円)

(12) 540,123 (千円)

(24) 1,042,786,505

1-2

四半期や年間売上を計算してみる



会社は通常、1年間という期をもとに運営されています。ただ、売上を四半期で計算することもあります。四半期というのは、1～3月期、4～6月期というように3カ月ごとに1年を4分割した期間のことです。ここで問題です。

「年度始めの1月の売上が2000万円で、その後も同じ水準の売上が見込めるとした場合、最初の四半期(1～3月期)の売上はいくらになるでしょうか？」

これは簡単ですね。 $2000\text{万円} \times 3\text{カ月} = 6000\text{万円}$ です。

では、「その四半期の売上が年間を通して同じ水準で見込める場合、1年間の売上はいくらになるでしょうか？」

1年間は1四半期が4つ分ですので、4倍すれば答えが出ます。

$6000\text{万円} \times 4 = 2\text{億}4000\text{万円}$ です。

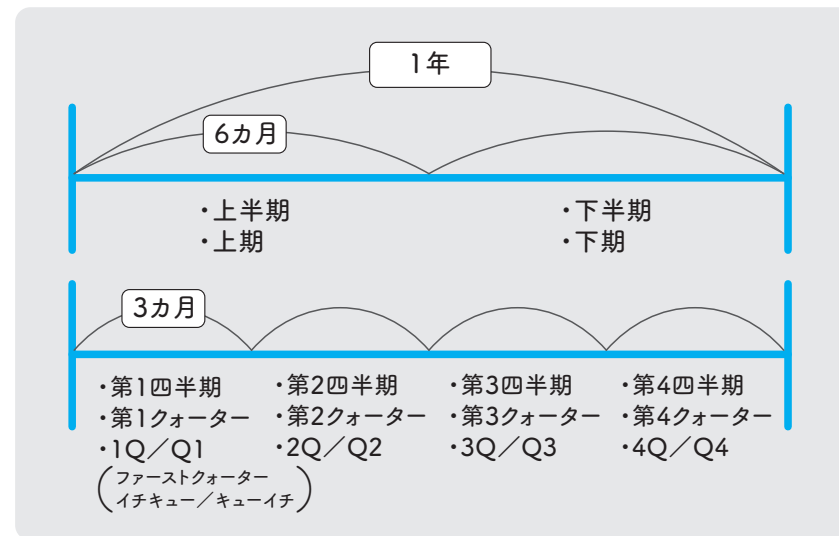
ちなみに、月の売上を単純に年間の売上として計算するときは「 $\times 12$ 」でOKです。

「 $2000\text{万円} \times 12 = 2\text{億}4000\text{万円}$ 」

ただこの時、2ケタ以上のかけ算になると、計算が苦手という人もいると思います。その場合は、前述のように四半期に分けて考えるとわかりやすく、計算ミスも起きにくいかもしれません。つまり、 $2000\text{万} \times 12$ を

「 $2000\text{万円} \times 3 \times 4 = 6000\text{万円} \times 4 = 2\text{億}4000\text{万円}$ 」

または、「 $\times 12$ 」を、「 $\times 2$ 」と「 $\times 6$ 」と分けるのも有効な計算方法です。「 $2000\text{万円} \times 2 \times 6 = 4000\text{万円} \times 6 = 2\text{億}4000\text{万円}$ 」



POINT 大きい数に慣れるために簡単な掛け算からはじめよう。

例1 毎月の売上が6000万円のとき四半期の売上はいくら？

「 $6000\text{万} \times 3 = 1\text{億}8000\text{万}$ 」と簡単に計算できますが、大きな数字が苦手な人の中には、ときおり「18億」と桁を間違えてしまうケースが見られます。

例えば、1000万を10倍すると1億になります。大きな数字が苦手な人は、100万、1000万、1億、10億など、桁を一つひとつつぶやきながら計算練習をしていくとよいと思います。

冷静に考えれば、1億に満たない数を3倍して18億になることはありませんし、1億でも18倍しないと18億にはなりません。

例2) 毎月の売上が3000億円するとき
年間の売上はいくら?

「3000億×12＝3兆6000億」で求められます。一気に計算できる場合は「×12」でOKです。

もし大きな数字、2ケタ以上のかけ算が苦手な人は、先ほど見たように「12」を「3×4」などと分解すると計算しやすいでしょう。

先ほどの四半期の計算を使うと、「3000億×3×4＝9000億×4＝3兆6000億」となります。

1-2 練習問題

(1) 月100万の売上高。そのままいくと、四半期分の売上高は?

(2) 月1000万の売上高。そのままいくと、四半期分の売上高は?

(3) 月1億の売上高。そのままいくと、半年分の売上高は?

(4) 月1億の売上高。そのままいくと、1年分の売上高は?

(5) 月500万の売上高。そのままいくと、1年分の売上高は?

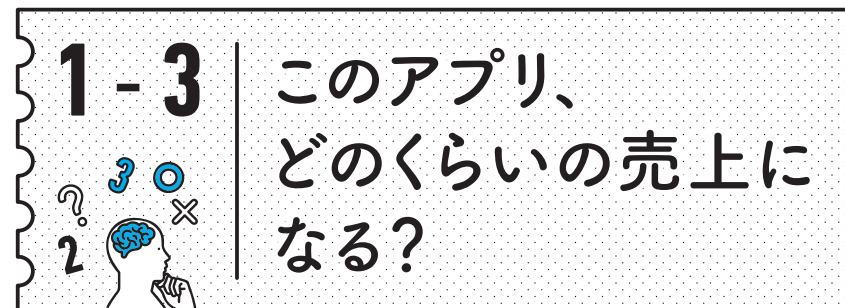
(6) 月700億の売上高。そのままいくと、四半期分の売上高は?

(7) 月4000万の売上高。そのままいくと、四半期分の売上高は?

(8) 月15億の売上高。そのままいくと、半年分の売上高は?

(9) 月600億の売上高。そのままいくと、1年分の売上高は?

(10) 月2000億の売上高。そのままいくと、1年分の売上高は?



会社で新開発したスマートフォンのアプリケーション。1ダウンロード1000円で販売することになりました。目標は10万ダウンロードです。目標を達成したときの売上はいくらになるのでしょうか。

1000円×10万＝?

で計算できますが、暗算でパッと答えを出すには少し難しいかもしれません。しかし、ポイントをつかんでおけば、簡単に計算することができます。

そのポイントとは、「0」の個数を数えることです。6ページの表を見てください。実は、「0」の個数に法則があることに気づくと思います。

日本語でちょうどキリのよい「万」「億」「兆」は、「0」の個数がそれぞれ4個、8個、12個になっています。また、「十」「百」「千」は、「0」の数がそれぞれ1個、2個、3個です。この「0」の個数を利用して計算をするのです。

1000円×10万＝1,000×100,000＝100,000,000

ゼロの個数が8つになりますので1億とわかります。これは覚えておくとう便利です(この節の後に簡単にできる練習問題を掲載しています)。

上の式からもわかるように、大きい数の掛け算は「0」の個数の足し算になります。

例えば、「100×100＝?」は、「0」の個数が「2+2＝4」になっています。ですから、答えは「0」が4つ付いた「10000」となります。

POINT 0の個数を覚えよう

十 … 1個	万 … 4個
百 … 2個	億 … 8個
千 … 3個	兆 … 12個

例1 $1000 \times 1000 = ?$

「1000」は、「0」の個数が3個です。それぞれ「0」の個数が3個なので、「 $3 + 3 = 6$ 」となります。

つまり、答えは「0」が6個並んだ「1,000,000」（百万）となります。

ちなみに、6個の「0」を「6個 = 4個 + 2個」と分解すると、「万」（0が4個）と「百」（0が2個）と解釈できます。よって「100万」と考えることもできます。このように0の個数を4個ずつ区切りながら数えていくと（慣れれば）簡単に答えを出せます。

例2 $100万 \times 1億 = ?$

「100万」は、「100」と「万」に分解でき、それぞれ「0」の個数が2個と4個に分けることができます。1億は「0」の個数が8個ですから、「 $2 + 4 + 8 = 14$ 」という計算になります。

「0」の個数が14個ということは、「 $2 + 12$ 」と解釈でき、それぞれ「100」と「兆」です。つまり、答えは「100,000,000,000,000」（100兆）ということになります。ポイントは14個の0の個数を12個（兆）と2個（百）の足し算に分解することです。

$1,000,000 \times 1,000$

大きい数の掛け算は0を足すだけでいいんだ。
 ってことは、 $6 + 3 = 9$
 9個ってことは1,000,000,000
10億か!!



1-3 練習問題

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| (1) 100×100 万 | (13) $1万 \times 100$ |
| (2) $100万 \times 10万$ | (14) $1,000 \times 100$ |
| (3) $1,000 \times 1,000$ | (15) $10万 \times 10万$ |
| (4) $10 \times 1万$ | (16) $1,000 \times 1億$ |
| (5) $10万 \times 100$ | (17) $100億 \times 1000$ |
| (6) $10 \times 1000万$ | (18) $1万 \times 1,000$ |
| (7) $100 \times 10万$ | (19) $10 \times 10億$ |
| (8) $10万 \times 1万$ | (20) $100万 \times 1000$ |
| (9) $10 \times 1,000$ | (21) $10万 \times 1億$ |
| (10) $10万 \times 100万$ | (22) $1000万 \times 100万$ |
| (11) $100万 \times 100万$ | (23) $100万 \times 1億$ |
| (12) $1000万 \times 100$ | (24) $100億 \times 10万$ |

2-5

2桁×2桁の計算 (2倍と半分のテクニック)



2桁×2桁の計算など、もう少し桁が多くなった計算は暗算で行なう必要はありません。というか、珠算などを子どもの頃にやっていた方は別として、一般的に難易度がグッと上がってしまい、習得には頭の中に数字を置きながら計算をする一定の力が必要とされるため、おすすめしていません。ですが、うまく変形すれば暗算できるようになる計算もあります。挑戦してみましょう。

POINT

1桁をつくる2倍と半分のテクニックを活用しよう

例1) $15 \times 24 =$

なかなか難しい計算です。しかし、これをどうやって計算するかといえば、15を2倍にしてしまいます。すると30になって1桁(上から2桁目は0になって0を付け加えるだけ)になります。その代わりに、24を半分にします。計算式で置き換えればこんな風になります。計算しやすくなりますね。

$$\begin{aligned} &15 \times 24 \\ &= 15 \times (12 \times 2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= 15 \times 2 \times 12 \\ &= 30 \times 12 \quad * \\ &= 360 \end{aligned}$$

最初の式から*の式まで飛ばしてみれば、左側を2倍、右側を半分に行っていることになります。これが「2倍と半分のテクニック」と呼ばれる所以です。

例2) $16 \times 22 =$

この計算はどうでしょうか。

$$\begin{aligned} &16 \times 22 \\ &= 8 \times 44 \\ &= 352 \end{aligned}$$

2倍と半分のテクニックを駆使すれば、16は半分になると、1桁になることに気づきます。うまく計算を工夫すれば2桁×1桁にでき、計算しやすくなるのです(片方のかける数が12、14、16、18だったりすると、この手法は使いやすいです)。

15×16は
暗算できなさそうだけど
2倍と半分のテクニックを
活用すれば30×8に!!
かんたんかも!



2-5 練習問題

(1) $12 \times 15 = ?$

(2) $15 \times 18 = ?$

(3) $16 \times 25 = ?$

(4) $14 \times 35 = ?$

(5) $18 \times 45 = ?$

(6) $25 \times 12 = ?$

(7) $22 \times 15 = ?$

(8) $45 \times 16 = ?$

(9) $12 \times 35 = ?$

(10) $14 \times 45 = ?$

(11) $12 \times 12 = ?$

(12) $16 \times 14 = ?$

(13) $18 \times 33 = ?$

(14) $13 \times 16 = ?$

(15) $42 \times 18 = ?$

(16) $250 \times 14 = ?$

(17) $12 \times 310 = ?$

(18) $14 \times 55 = ?$

(19) $18 \times 750 = ?$

(20) $16 \times 18 = ?$

2-6



11と2桁の計算

「11を掛ける」という計算は、実は日常の中にあふれています。例えば、消費税の計算です。2023年現在、消費税率は10%なので、税抜額から税込額を計算するのに1.1倍しますし、売上が昨年から10%増加したときの計算もこれです。

POINT 縦にならべて1つ横にスライドして足す

例1) $36 \times 11 =$

こちらを筆算で書いてみると以下ようになります。

$$36 \times 11 \rightarrow \begin{array}{r} 36 \\ 36 \\ \hline 396 \end{array} \quad \leftarrow \text{36を1つ左にスライドして足すだけ!}$$

2-6 練習問題

(1) $11 \times 14 = ?$

(2) $80 \times 11 = ?$

(3) $11 \times 22 = ?$

(4) $72 \times 11 = ?$

(5) $32 \times 1.1 = ?$

(6) $1.1 \times 66 = ?$

(7) $51 \times 1.1 = ?$

(8) $1.1 \times 42 = ?$

(9) $73 \times 1.1 = ?$

(10) $1.1 \times 38 = ?$

(11) $89 \times 11 = ?$

(12) $11 \times 67 = ?$

(13) $440 \times 11 = ?$

(14) $11 \times 760 = ?$

(15) $910 \times 11 = ?$

(16) $1.1 \times 850 = ?$

(17) $5200 \times 1.1 = ?$

(18) $1.1 \times 6400 = ?$

(19) $78万 \times 1.1 = ?$

(20) $1.1 \times 980万 = ?$

これをじっと眺めてみれば、36を縦に並べて1つ横にスライドして足しているだけです。

2-4節の計算問題で解いたときのように、頭の数から計算しましょう。頭の数の方が優先順位が高いので、最初に出してしまいます。

よって、 $36 \times 11 = 360 + 36 = 396$ と計算ができます。

ちなみに商品の値段を税込の金額で出す方法も一緒ですが、桁が一つずれてしまうことに注意が必要です。

実際にやってみましょう。

例2 税抜価格18万円の商品の税込価格を求めましょう。

税込=税抜 $\times 1.1$ となりますが、同じように1桁ずらしたものを足すだけです。「 $\times 1$ 」自体はそのままの数字でよいため、残りの「 $\times 0.1$ 」をうまく足してあげれば答えが出ます。つまり、1.8万を足せばよいわけです。

$$18万 \times 1.1 = 18万 + 1.8万 = 19.8万$$

となり、簡単に解けます。

縦に並べて横にスライドさせると、

$$\begin{array}{r} 18 \\ 18 \\ \hline 198 \end{array} \quad \leftarrow \text{18を1つ右にスライドして足すだけ!}$$

となり、11ではなく1.1なので小数点を加えて19.8と答えが出ます。